

地域の記憶と未来をつなぐ和文化教育

―東北・仙台の和文化与復興の歩みから―

第23回

和文化教育学会 全国大会

東北・仙台大会

【11/28(土)】研究発表 基調講演 シンポジウム

受付	《9:00～》	受付開始	ホーイ記念館1階ロビー
開会	《9:40～9:50》	大会実行委員長挨拶 和文化教育学会会長挨拶	H301教室
開催地企画	《9:50～10:05》	「復興の歩みとともに受け継ぐ地域の文化」	H301教室
研究発表	《10:15～12:15》	分科会発表 第1分科会 H305教室 第2分科会 H306教室 第3分科会 H307教室 第4分科会 H308教室	
昼食・理事会	《12:20～13:05》	和文化教育学会理事会	H302教室
総会	《13:05～13:30》	和文化教育学会総会	H301教室
基調講演	《13:40～14:50》	「地域の記憶を未来へつなぐー南三陸の震災伝承と復興の歩みからー」 高橋 一清 (南三陸311メモリアル館長)	H301教室
シンポジウム	《15:05～16:45》	「東北・仙台の文化継承と復興を考える和文化教育 一学校・地域・国際をつなぐ視点からー」 司 会：岡崎 均 (大阪体育大学) 佐藤 正寿 (東北学院大学) シンポジスト：佐藤 淳一 (仙台白百合女子大学) 橋本 裕之 (大阪公立大学)、 中村 哲 (和文化教育学会会長) コメンテーター：梶田 勲一 (前和文化教育学会会長) 佐々田 亨三 (大会実行委員長)	H301教室
閉会	《16:50～17:00》	大会事務局長挨拶・学会理事長挨拶・次期大会開催代表挨拶	H301教室
情報交換会	《18:00～19:30》	会場「亜門」(仙台市営地下鉄「広瀬通駅」徒歩5分) 希望者	

【11/29(日)】巡検 《8:20～15:40》南三陸 311 メモリアル・石巻市震災遺構大川小学校訪問

主催 第23回和文化教育学会全国大会東北・仙台大会実行委員会 和文化教育学会

後援 文部科学省 宮城県教育委員会 仙台市教育委員会 河北新報社 日本教育新聞社

【和文化教育学会事務局】〒673-1494 兵庫県加東市下久米 942-1 兵庫教育大学 鈴木正敏

【<https://www.rawace.org/>】《日程》令和八年十一月二十八日「土」・二十九日「日」
《会場》東北学院大学 土樋キャンパス ホーイ記念館

令和 8 (2026)年度 第 23 回和文化教育学会全国大会東北・仙台大会要項

1. テーマ 地域の記憶と未来をつなぐ和文化教育 ―東北・仙台的和文化和震災復興の歩みから―

2. 開催趣旨

東北地域には、祭礼、芸能、工芸、生活文化など、地域の歴史や風土に根ざした多様な和文化が受け継がれてきた。一方、東日本大震災からの復旧・復興の歩みの中で、祭りや芸能などの文化は、人々の心を支え、地域のつながりを取り戻す役割を果たしてきた。復興は、社会基盤の再建だけでなく、地域の記憶や文化を次世代へつなぐ営みでもある。本大会では、東北・仙台的和文化和震災復興の歩みを踏まえ、地域文化の継承・再生・発信を担う和文化教育の意義と可能性を、基調講演、シンポジウム、巡検を通して考察し、今後の実践と研究の方向性を探る。

3. 会場およびアクセス 東北学院大学 土樋キャンパス ホーイ記念館

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目 3-1

(※地下鉄五橋駅直結の五橋キャンパスではありません)



4. 日程【11月28日(土)】研究発表 基調講演 シンポジウム

9:00～	受付	ホーイ記念館 1 階ロビー
9:40～ 9:50	開会【オンライン併用】	H301 教室
9:40～10:05	開催地企画【オンライン併用】	H301 教室
10:15～12:15	研究発表 第 1 分科会～第 4 分科会 第 4 分科会はオンライン	H305 教室～308 教室
12:20～13:05	昼食 理事会	H302 教室 (理事会)
13:05～13:30	総会	H301 教室
13:40～14:50	基調講演【オンライン併用】 「地域の記憶を未来へつなぐ―南三陸の震災伝承と復興の歩みから―」	H301 教室
15:05～16:45	シンポジウム【オンライン併用】 「東北・仙台的文化継承と復興を考える和文化教育―学校・地域・国際をつなぐ視点から―」	H301 教室
16:50～17:00	閉会【オンライン併用】	H301 教室

【情報交換会】 11月28日(土) 18:00～19:30 会場「亜門」 会費 5,000 円

電話 022-222-3008 <https://amon-kokubunchou.com/>

【11月29日(日)】巡検 (貸切バス)

テーマ: 「地域の記憶と震災伝承を現地で学ぶ」

日時: 令和 8 (2026) 年 11 月 29 日 (日) 8:20 (仙台駅東口集合) ～15:40 (仙台駅解散)

場所: (1) 南三陸 311 メモリアル・南三陸町震災復興祈念公園 (プログラムによる見学)

(2) 石巻市震災遺構 大川小学校・大川震災伝承館 (語り部による見学)

参加者: 25 名限定 (先着順)

参加費: 10,000 円 (バス代、プログラム参加費、語り部代)

5. 内容

(1) 研究発表《10:15～12:15》「発表 15 分 質疑応答 5 分」

第1分科会 「地域文化の継承・再生と震災復興」 H305教室 司会：関根秀治（平安女学院大学）			
1	次世代に仙台弁の文化を繋ぐ	渡邊裕子	かぼちゃの会 （いっちゃんね仙台弁の日実行委員会）
2	被災地への道・・・茶の心 一碗で「復幸支援」	平栗美和子 （宗点）	（一社）茶道表千家談交会岩手支部
3	地域における池坊いけばなの取組み（仮）	成澤 志庵 （湖都）	華道家元池坊宮城支部
4	近代教育遺産と地域の教育文化資産としての小学校校舎 -明治/大正/昭和期の全数調査を手がかりに-	岡崎 均	大阪体育大学
5	大竹和紙と大竹狸のぼりの歴史と魅力（仮題）	野崎 倫子	大竹狸のぼりを継承する会
第2分科会 「学校教育における和 문화の学びと実践」 H306教室 司会：湯峯 裕（桃山学院大学）			
1	保育者養成課程における音楽表現活動の可能性 一和太鼓を体験した学生の質問紙調査による考察一	大浦知加	大阪総合保育大学大学院
2	和文化教育実践が与える子どもの成長への影響	及川 直人	八街市教育委員会
3	中学校における郷土教材とその活用 ～道徳科授業という視点から～	吉田雅子	大阪体育大学
4	道徳科教科書における茶道の教育的扱い 一学校教育における茶道の位置づけを踏まえた現状と課題一	奥中淳未	関西学院大学 言語コミュニケーション文化研究科
5	お茶の学びと学校経営	向井隆盛	行田市立南河原小学校
6	日本文化とは和紙である。をテーマに 日本文化の継承について	田村正	和紙文化研究会・日本文化体験交流塾
第3分科会 「現代社会における和 문화の表現・価値・可能性」 H307教室 司会：小林 隆（佛教大学）			
1	若者の情報行動は和文化足り得るのか一 一情報美学から探る「無意識の和文化」の可能性	竹繁諒真	武庫川女子大学社会情報学部
2	スーパー戦隊における多種共生の表象と「和解」の思想史	出村雅実	流通科学大学
3	広島大学における和 문화の発信 ～2026年度の活動を中心に～	伊藤 奈保子	広島大学人間社会科学研究科
4	伝統的な身体動きによる表現性に関する一考察	畑野 裕子	兵庫教育大学（国内特別研究員）
5	日本社会に根差したウェルビーイングを育む和文化教育	高橋史朗	麗澤大学
第4分科会 「和文化教育の継承・創造とグローバルな展開」〔オンライン〕H308教室 司会：鈴木正敏（兵庫教育大学） 松岡 靖（京都女子大学）			
1	未来志向の和文化教育 ～「おもてなし」を分析視点とした授業モデルの開発～	上田 真由 松岡 靖	京都女子大学大学院・京都女子大学
2	和楽器文化の伝承と普及について考える ～学生による国際文化交流の実践から～	早川 倫子	岡山大学
3	伝統遊びの「かるた」教材を用いた安全学習の効果検証	八木利津子	桃山学院大学
4	武士道思想のグローバル化と文化創造	松井克行	西九州大学
5	和文化教育の今日的意義と今後の可能性 ～グローバルな視点での教育課程の構築～	谷本 寛文	京都光華大学

(2) 基調講演《13:40～14:50》

「地域の記憶を未来へつなぐ一南三陸の震災伝承と復興の歩みから一」

高橋 一清（南三陸 311 メモリアル館長）

(3) シンポジウム《15:05～16:45》

「東北・仙台の文化継承と復興を考える和文化教育一学校・地域・国際をつなぐ視点から一」

司 会	岡崎 均（大阪体育大学）	佐藤 正寿（東北学院大学）
シンポジスト	佐藤 淳一（仙台白百合女子大学）	橋本 裕之（大阪公立大学）
	中村 哲（和文化教育学会会長）	
コメンテーター	梶田 勲一（前和文化教育学会会長）	佐々田亨三（大会実行委員長）

大会参加・申込みのご案内

1. 大会 WEB サイト

「第 23 回和文化教育学会全国大会東北・仙台大会」の『第 23 回大会サイト』
(<https://www.wabunka.online/>) を開設します。

本サイトの URL と QR コードから大会内容の閲覧と大会参加の申込みが可能です。

QR コード

2. 参加申込み方法

大会参加希望の方は、上記 WEB サイトから令和 8 年 11 月 20 日（金）までに必要事項をご記入の上、お申し込みをお願いいたします。申込と同時に参加費の送金をお願いいたします。なお、入金後の返金はありませんので、ご了承くださいますようお願いいたします。

3. 参加費

会員・会員外の発表者：2,500 円（令和 8 年 11 月 21 日以降の入金の場合は 3,000 円）

一般参加者：1,000 円（資料代） 学部学生：無料

情報交換会：5,000 円（参加者のみ）

巡検：10,000 円（参加者のみ）

鯉のぼりプロジェクト支援費：1 口 500 円（口数に応じて鯉のぼりを進呈）

4. 参加費の送金先

参加費（情報交換会・巡検・鯉のぼりプロジェクト支援費含む）をまとめて右の銀行口座へご送金ください。参加費の送金は、必ず個人名を記載ください。

《銀行振込口座》 **みなと銀行 社支店(325 やしろ)**
普通預金 口座番号 3817159
口座名 和文化教育学会

なお、学会の年会費の入金は、「ゆうちょ銀行 00930-6-227146 和文化教育学会」にお願いします。

5. 第 23 回和文化教育学会全国大会 東北・仙台大会実行委員会

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目 3-1 東北学院大学土樋キャンパス 佐藤 正寿

E-mail: msts5sato@nifty.com TEL: 022-721-3484（研究室直通）

グローバル文化シンボル「鯉のぼり」プロジェクトへの支援のお願い

この「鯉のぼり」プロジェクトは、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を契機として、社会的危機状況において文化が果たす役割を問い、被災地の復興支援を含め、国内外において世界の平和と文化交流を目指す活動です。この活動の原点は、土井晩翠の息子である英一氏が、東北大学在学中に構想した「国際友好鯉のぼりの会」（昭和 9 年 3 月設立）にあります。英一氏は、昭和 6 年 9 月 18 日の柳条湖事件を端とする日中間の武力紛争（満州事変）の状況において、日本人の心を世界の人々に理解してもらう試みの必要性を痛感しました。そこで、エスペラントによる国際文通の親友であった、ドイツ・マールバッハ在住の小学校校長ヨハネス・シュレイダー氏の学校へ「鯉のぼり」を送ったところ、児童たちによってドイツの空に掲揚されたのです。この交流体験を通じて、英一氏は世界の子どもたちに平和を託し「鯉のぼり」を贈る「国際友好鯉のぼりの会」を構想しました。

この「鯉のぼり」活動は、日本の伝統行事の性格を踏まえ、世界の平和と文化交流を担う先駆的な取り組みとして意義づけられます。戦後も組織として活動が続けられていましたが、昭和 62 年頃、第 3 代会長・黒川利雄氏から英一氏の親友である小野田薫氏へ事務が委託された頃には、活動は停滞していました。令和 4 年 10 月、小野田薫氏のご子息である小野田教高氏より会の関係資料をご提供いただいたことを契機として、英一氏の理念も含めてグローバル文化シンボルとしての鯉のぼり活動を、万博記念公園をはじめ、フランス、ドイツ、アメリカ、中国、フィリピン、カンボジアなど各地域で活動を実施しています。

これからも、鯉のぼりをグローバル文化シンボルとして掲げ、世界の平和と文化交流を促進し、子どもたちの未来への希望を発信する活動を続けてまいります。本プロジェクトの趣旨にご賛同いただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。<https://www.rawace.org/project.html>



土井英一



国際友好鯉のぼりの会 鯉のぼり



ドイツ



フランス



万博記念公園